

「先を急がず、今、踏む土、一步を大事に、力強く、ゆっくりでも、進んでいけば、いつかは、着く。」と自分に言い聞かせる。

太陽がギリりと顔を出す中を、手に持つ黒い折りたたみ傘を見ながら、  
「家を出るときは曇っていたのに。」とつぶやきながら、ポックリ、ポックリ、ろばのパン屋さんの気分で歩く。

大変長く感じた。

「これはいかに僕の気が長いかの実験じゃ、忍耐強さはここにあり。」  
と一人で言って、一人で満足して、うなづきながら、ツタコラ、スタコラ、すまし顔して歩いて行く。

「ただ、健ちゃんがいなかったらどうしよう」と、一瞬、不安になったが、  
「まあいい。いなかったら、この際、また、引き返して帰ったらええ！」  
今度は三条京阪まで、歩いたれ！」  
と、開き直った調子で、落ち着いた調子で歩く。

人気のない、静かな北野神社の中を抜けて、北に上がった。

千本通りを横断し、船岡山の南をまわり、回って、小学校時代の友達が多い町なみを歩く。